

FOMCは無風通過か、雇用統計は堅調な状況を確認へ～米FOMC／雇用統計

2018年4月30日(月)

ゴールデンウィークの真ただ中、市場では大きなイベントが二つ予定されています。1日、2日の米連邦公開市場委員会(FOMC)と、4日の米雇用統計です。

FOMCに関しては、政策の現状維持がほぼ確定的。今年あと2回もしくは3回の利上げが期待されているFOMCですが基本的には議長会見とFOMCメンバーによる経済・物価・金利などの見通しが発表される回での金利変更が見込まれています。今回はそうした回には当たっていない(年8回のうち、ある回と無い回が交互に4回ずつ)回の為、基本的には現状維持の見込みです。

注目は声明の内容。6月の利上げがほぼ確定的といわれる中で、利上げに向けてどこまで前向きな姿勢を示してくるのがポイントに。

利上げを実施した前回3月のFOMCでの声明は雇用市場に関する自信を示したものの家計支出や設備投資の伸び鈍化などに言及し、インフレについても現状についてはやや慎重な表現に。

今後については経済状況は政策金利のさらなる緩やかな引き上げを正当化する形で進むと予測すると表現しました。

もっとも、その後に発表された議事要旨を見るとメンバーに見通しは基本的に楽観的。リスクバランスについても下方リスクに言及せずと前向きな姿勢が見られています。

こうした状況を考えて、比較的前向きな姿勢が示されそう。直前の小売売上高の好結果など家計支出についての明るい兆候をどこまで評価するかなどが注目されます。

また、米中を中心とした通商問題が、今後の見通しにどこまで影響を与えているのかなどもポイントです。

続いて4日の米雇用統計です。前回の雇用統計は非農業部門雇用者数(NFP)の予想以上の弱さが目立ちました。3月のNFPは前月比+10.3万人と、2月の+32.6万人(速報時点+31.3万人)から大きく減少。2月の数字が強すぎたこともあり、元々少し鈍化見込みで予想は+18.5万人でしたが、それと比べても弱い数字でした。0.1%減少見込みの失業率も2月と同じ4.1%と、6か月連続の横ばいに。労働参加率は62.9%と2月の63.0%から低下と総じて弱い結果となりました。

もっとも、好天候に恵まれて強めに出了た2月の反動分と考えるとそこまで弱くとは言いきれず。1-3月期の平均は20.2万人と20万の大台を維持しています。

平均時給は予想通り。前月比+0.3%、前年比+2.7%となりました。予想通りとはいえ、2月からは伸びており、こちらはまずまずです。

こうした状況を受けて、今回の雇用統計です。非農業部門雇用者数は+18.5万人と、伸びが回復見込みです。20万人の大台には乗らない見込みとなっていますが、前回および前々回の数字が、前回の発表時点での水準であれば、今回の予想値と合わせて3か月平均で20万人を上回る水準であり、比較的堅調といえます。失業率は4.0%に低下見込みです。平均時給は前月比+0.2%、前年比+2.7%と、ほぼ3月分と同水準見込みです。

予想前後の数字が出てくると、米雇用市場は堅調な状況を維持という印象。なお、前回の雇用者数がかなり弱かった分、2か月続けて予想を下回って弱めに出てくると市場の警戒感を誘いますので、その点には要注意です。